



1



2

1_昨年には、市・県外の知人にホップ畑を訪れてもらい、収穫体験や生産現場の見学をする自主企画を他メンバーと開催 2_市内のホップ圃場約2ヘクタールを借りて活動している

「ホップとビールで人をつなぐ」
ビールプロジェクト 近藤弘和さん

遠野に来る前はどんなことをしていましたか？

都内の会員制オーガニック食材販売会社に12年勤め、契約農家さんからオーガニックの野菜などを仕入れて会員に届ける仕事をしていました。40歳くらいになって、「地元の岡山県岡山市近くで山があるところに移住したい」という思いが出てきて、その頃にこ



「ホップとビールで人をつなぐ」
ビールプロジェクト 近藤弘和さん

遠野に移住し起業を目指す皆さんを紹介
遠野で起業に挑戦中！
Vol.4

の取り組みを知りました。岡山からは遠いけれど、「移住したい」「自分で会社を起こしたい」という思いから遠野に来ることを決めました。

遠野に来てからどんな活動をしてきましたか？

昨年はホップ農家さんで1シーズン研修をさせていただき、今年から2ヘクタールの畑を借りて、ホップの栽培

を行っていています。畑の面積が広く作業は大変ですが、そのぶん栽培技術をすべて身につけられているのが今は楽しくて、やりがいを感じています。ホップの栽培をしていると、地元の人と関わる機会が自然と作れることも仕事の楽しさに繋がっています。これからもっとビールの醸造に関わっていきたくと思っています。

今後の目標や取り組みたいことを教えてください。

「人と人をつなぐ仕事をしたい」という動機が今の仕事に繋がっていると感じています。ビールを一つの方法として、ビールに関連するツアーだったり、ビールを楽しめる企画ができたらいなと思っています。みんなが楽しみながら働くことが出来る会社を作りたいという目標もありますね。ビールを飲むだけではなく、ホップ栽培やビールづくりを通して人と人が繋がっていくことを実現させていきたいと思っています。

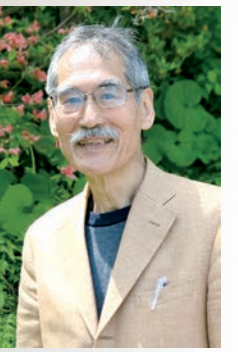
遠野文化研究センターだより とおのじん -其の2-

遠野人

遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報を、先月からお届けしています。
今月は、あの「カッパ」です。

★今月の筆者 **木瀬 公二**

遠野文化研究センター研究員、朝日新聞・社友記者。1948年東京生まれ。73年朝日新聞入社。元盛岡総局長。08年に達曾部に移住。著書に遠野物語関連の『119のはなし』など。



カッパ好きの私が「沖縄にもいるらしいぞ」と言ったのを覚えていた娘が、沖縄で結婚式をしようとってきた。カッパがでると言われている場所も見つけたからと。それで2010年5月、披露宴とは別建ての、親族だけの新婚旅行とカッパ探しを兼ねた結婚式のために沖縄入りした。新郎新婦を含む我が家の一行は12人。3台のレンタカーを借りて目的地の喫茶店に向かう。カーナビはどんどん山の中に連れていく。舗装道も途切れる。1時間以上は走ったが何の気配もない。もう引き返そうと思った時、ついに店が現れた。それぞれがコーヒーなどを注文し、一段落したところでカッパの話を持ち出した。「ええ、あそこのハンモックの脇にちょくちょく来るんです」と事もなげにその女主人は言った。ただし、自分では見たことはない。何人かの客がそういうのだと説明した。聞いているとどうやら、カッパとザシキワラシを混ぜたような存在のようだった。そういえば佐々木喜善も「カッパとザシキワラシは同じ」と言っていた。



右下のハンモックあたりにカッパがくると言われている

その3年前、秋田県で「カッパが教えてくれた薬をこの間まで売っていた」という人に会った。売れ残った薬をもらい、富山医科薬科大の教授にみてもらった。

その3年前、秋田県で「カッパが教えてくれた薬をこの間まで売っていた」という人に会った。売れ残った薬をもらい、富山医科薬科大の教授にみてもらった。

★今月のプレゼント

このコーナーについてご意見、ご感想をお寄せいただいた方3名様へ、抽選で遠野学叢書第12巻『遠野の河童』をプレゼントします。①お名前②ご住所③電話番号④感想-を添えて下記まで送付ください。多数の応募をお待ちしております。※締切7月31日(火)



ら「薬効があっても不思議ではない」と言われた。以来、カッパとは何者かが気になり、いろいろな人に聞いた。漫画家の水木しげるさんのご自宅で聞いた話のメモが見つからないのが残念だが、遠野物語のシンポジウムで一緒にした民俗学者の谷川健一さんが教えてくれた「中国から九州に渡ってきて〜」という話と似ていた記憶がある。

そうなのです。遠野が本場と思われていたカッパの本籍は中国らしいのです。それがなぜ、遠野が本場になったのか。私は答えを知っています。

カッパはどぶ川では住めない。ビルの中でも生きていけない。豊かな自然が残る場所にどんどん追い詰められていった。言い換えると、自然が豊かな土地にしかカッパは住まない。そういう土地が遠野です。大事にしていきたいと思っています。というのは私の考えです。

本当はどうなのか。遠野文化研究センターの熊谷航学芸員が長年にわたりカッパの正体に迫る研究を重ねました。その成果を発表する会が7月21日(土)、行われます。下段にお知らせが載っております。面白い話が聞けます。ぜひぜひお出かけください。



カッパ淵について説明する学芸員

★講座のお知らせ

遠野のカッパすごいぜ！ **教えて！カッパ学芸員**
遠野にいた？いる？河童のあれこれを紹介したあと、博物館で開催中の特別展「遠野物語と河童」をご案内します。
■日時 7月21日(土)10時~12時 ■場所 遠野市立図書館
■講師 遠野文化研究センター 熊谷 航 学芸員 **無料！**
■申込 開催日の前日までに電話にて受付



★問い合わせ:遠野市東館町3-9(遠野市立博物館内)/TEL:60-2800/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp

イベント 7月に企画しているイベントです
お気軽にお問い合わせください

おもしろTONO学 特別企画
『遠野物語』海辺の記憶
~沿岸と遠野を物語でつなぐ2日間~

- 日時 ※2日間のイベントです。
①7月14日(土)13時~21時
集合:遠野駅前
内容:市内で講義/フィールドワーク/農家民宿で夕食(宿泊可能)
- ②7月15日(日)8時半~16時(予定)
集合:遠野市運動公園駐車場
内容:沿岸部へフィールドワーク
- 参加費:6,000円
(市内在住の方:4,000円、中学生以下:2,000円)
※初日の夕食代 3,000円をご用意ください
(アルコール別)
- 問い合わせ先:電話:080-5451-0290
メール:gaku@tomikawaya.com

【訂正とお詫び】 6月号21頁「我ら、地域おこし隊！」3番の写真に記載したキャプションに誤りがありました。正しくは「前職の経験を生かし、市内の方と交流をする富川さん」となります。訂正しお詫びします。